

【教示と回答例】

ここ一週間のあなたの状態についてお聞きします。

下に出てくる文章について、自分にあてはまるところを○で囲んでください。

質問項目中の「薬物」「薬」は、あなたが問題にしている薬物のことを思い浮かべてお答えください。

×, △, ○のうち、どれかひとつを○でかこんでください

	あまりあてはまらない あてはまらない	ややあてはまらない あてはまらない	ややあてはまる あてはまる
例) よく眠れる	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【項目】

【再使用不安と意図 (Anxiety and intention to use drug; AI)】

(直接薬物を使いたい気持ちはさておき) 自分が薬物を再使用してしまうのではないかと不安や予感を測定するものです。

- ・また使ってしまうのではないかと心配になる × △ ○
- ・薬物を使用していたときの感覚がよみがえることがある × △ ○
- ・家族のことを考えるともう使えないと思う (逆転項目) × △ ○
- ・近い将来、薬物を使う気がする × △ ○
- ・薬物を使用したいと思ったことがある × △ ○
- ・病院の中でも友達に誘われれば使ってしまう × △ ○
- ・今度使ったら逮捕されるとわかっていても使ってしまう × △ ○
- ・まとまったお金が入れば薬を買いたい × △ ○

【感情面の問題 (Emotionality problems; PM)】

感情のコントロールできなさ・焦り・いらいら・さみしさ・やる気の無さ・不安など、さまざまな感情面の問題についてその程度を測定するものです。

- ・自分の気持ちがコントロールできないと感じている × △ ○
- ・気持ちがあせって疲れていると感じている × △ ○
- ・いらいらしている × △ ○
- ・孤独でさみしいと感じている × △ ○
- ・何に対してもやる気がない × △ ○
- ・将来にたいして不安を感じている × △ ○
- ・まわりの人の言葉がわずらわしいと思う × △ ○
- ・口さみしくてしょうがない × △ ○

【薬物使用への衝動性 (Compulsivity for drug; CD)】

たとえ反社会的な行為だろうが何をしてでも薬物を手に入れたいという薬物使用への衝動性を測定するものです。

- ・法に触れる仕事をしてでも薬物を手に入れたいと思う × △ ○
- ・薬物を買うお金をかせぐためならなんでもしようと思う × △ ○
- ・薬物を使用するためならほとんど何でもするだろう × △ ○
- ・盗んででも薬がほしいと思うことがある × △ ○

【薬効へのポジティブ期待と刺激脆弱性 (Positive expectancies and lack of control over drug; PL)】

薬物使用によるポジティブな効果 (元気になる・いらいらが消える) への期待と、状況次第 (ひとりである時・誘われた時・目の前に薬がある時) で薬物を使ってしまう可能性について測定するものです。

- ・薬物を使うと元気になる気がする × △ ○
- ・薬物を使ったら、いらいらがなくなるように感じるだろう × △ ○
- ・薬を使うと、なんでも物事がスムーズにいくように感じる × △ ○
- ・目の前に実際に薬物があれば使ってしまう × △ ○
- ・ひとりになったら使ってしまう × △ ○
- ・目の前で薬を誘われたら、NO とはいえない × △ ○

【薬害認識 (ネガティブ期待) の欠如 (Lack of negative expectancy for the drug; NE)】

薬害 (薬物使用によりもたらされるネガティブな結果) について充分自覚できていない程度を測定するものです。

- ・もし、薬物を使ったら、すぐにまともな行動がとれなくなってしまうと思う
(逆転項目) × △ ○
- ・もし薬物を使ったら、仕事に影響が出ると思う (逆転項目) × △ ○
- ・以前より気持ちが軽くなったと感じている (逆転項目) × △ ○
- ・幻覚・妄想状態になるのが怖い (逆転項目) × △ ○

【病識の強さ項目】

自分が薬物依存という病気であるという病識を充分持てているかどうかを測定するものです。

- ・自分の力だけで薬物をやめられると思う (逆転項目) × △ ○
- ・ずっと薬を使わないでやっていくことができそう (逆転項目) × △ ○
- ・もう大丈夫だと思う (逆転項目) × △ ○
- ・もう薬物を使わないという自信がある (逆転項目) × △ ○
- ・自分は依存症だと思う × △ ○

【実施上の注意点】

- ・項目は上記のものをランダムに配置して用います。
- ・×=1点, △=2点, ○=3点で各項目を得点化します。
- ・各下位尺度は単純平均得点 (もしくは合計得点) を算出して評価します。
- ・5つの下位尺度の全平均得点 (もしくは合計得点) を SRRS 総合得点とします。
- ・病識の強さ項目については補助的に用います。得点化し合計点を算出したのち、合計点が極端に低い者 (全平均

もしくは合計が最低点 (1 点) にしかならないなど) に関しては、否認している可能性を疑います。

【得点の解釈について】

- ・再使用につながる要因は個人によって多様である面も多く、本尺度では明確なカットオフポイント (この得点以上をとった場合は再使用危険域等) のようなものは設けておりません。
- ・基本的には継続的な実施による変動、もしくは他の変数との関連の中で得点を評価していただければと思います。
- ・参考に、標準化に用いたデータによる、スリップ (3ヶ月後/6ヶ月後のフォローアップ時点で再使用している) の有無による SRRS 下位尺度・合計得点の平均得点 (標準偏差) を示します。なお、得点は範囲 1-3 の平均得点として算出しています。得点評価の際、ひとつの参考としてください。

スリップ(3ヶ月・6ヶ月)の有無によるSRRS下位尺度・合計得点(標準偏差)

		再使用 不安	感情的 問題	衝動性	ポジティブ 期待	薬害認識 不足	SRRS 合計平均
スリップ (3ヶ月以内)	あり(N=10)	1.93 (.638)	2.11 (.776)	1.23 (.399)	2.00 (.643)	1.80 (.665)	1.81 (.396)
	なし(N=28)	1.54 (.433)	1.94 (.528)	1.25 (.441)	1.56 (.509)	1.44 (.544)	1.54 (.281)
スリップ (6ヶ月以内)	あり(N=12)	1.81 (.643)	1.95 (.799)	1.23 (.376)	1.92 (.649)	1.78 (.667)	1.74 (.427)
	なし(N=26)	1.56 (.436)	2.00 (.495)	1.25 (.453)	1.57 (.509)	1.43 (.529)	1.56 (.269)

・下線が両群で有意差 ($p < .05$) の認められたもの、斜体は有意傾向 ($p < .10$)

・下位尺度・合計得点共に範囲1-3の平均得点として算出している